

8月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2010. 8. No.29

コンポチュナン州のSAJ Farmで田植え式

～辛い昔日の思い出から、楽しい一時に～



渡邊代表理事と手をつないで田んぼに移動。



日本でも良く見る田植えの風景。

小さい子も
泥だらけに
なりながら
お手伝い。



皆楽しく田植えを済ませました。

皆さんこんにちは。今回は今年の7月に行なわれた、コンポチュナン州のSAJ Farmでの田植え式、そして渡邊代表理事との初めてのお食事会の様子をお知らせします。

田植え式

7月22日、子どもたちが待ちに待った田植え式当日がやってきました。普段の生活では学校への行き帰り以外、あまり園の外に出ることのない子どもたちは、1ヶ月以上も前に聞いていた「田植え式」のことを、そして遠い農場へ行くことを、とても楽しみにしていました。当日、バスの中でも騒がしいかと思いきや、普段は乗りなれないバスに酔い、具合悪いと言ってくる子も多数いました。途中何度か休憩をはさみ、朝7時に園を出発してから約2時間半バスに揺られて、やっとコンポチュナン州のSAJ Farmに到着しました。バスを降りると皆一斉に渡邊代表理事ご一行にご挨拶。その後、歩いて田植え会場である田んぼへと向かい、田んぼの前で渡邊代表理事の開会宣言となりました。

スタッフによる説明の後、3チームに分かれ田植え開始となったのですが、日本式の田植えに子どもたちは戸惑うばかり。しかし実は子どもたち、8割が田植え経験者。園に来る前は育ての親たちの元で、お手伝いをしていた子がほとんどでした。「やり方さえ覚えてしまえば簡単」と言わんばかりに、皆慣れた手つきでどんどん植えていきます。その甲斐もあって、開始から30分が経つ頃には、3チームとも全て植え終わりました。全列きれいに、とまではいきませんが、それもまた良い思い出になったことでしょう。子どもたちにとって、田植えは貧しかった暮らしや、学校に行けなかった日々、そんな辛さを思い出すものであったと思います。しかしながら今回の田植えでは、子どもたちは本当に生き生きとしていて、皆で笑い合いながら楽しそうに田植えをしていました。途切れることのない子どもたちの笑い声、そして笑顔で働く姿に胸が熱くなりました。今回の経験でまた一つ、子どもたちは農業を学ぶことが出来ました。



コーラやジュースを手に取り、皆で乾杯！



緊張してあまり食べられませんでした。



帰りのバス。皆、完全燃焼しました。



皆に
おめでとうの拍手
をもらいました。



高校生になるスレイノイー。

初めてのお食事会

田植えの後は、皆着替えておしゃれして…首都プノンペンでのお食事会です。子どもたちの住むポーサット州クラコー郡はプノンペンから車で約3時間半のところにあります。プノンペンというと、普段は決して行く機会のない遠い場所です。そんな憧れの首都プノンペンに行くということで、子どもたちは皆期待に胸を膨らませ、それぞれが目一杯のおしゃれをして、コンポanchun州のSAJ Farmからプノンペンに向かいました。

憧れのプノンペンに着き、レストランの前でバスを降りると、皆とても緊張しているような、でも嬉しくて、恥ずかしくて、そんな複雑な表情を浮かべながら、慣れない様子でレストランに入って行きました。いざ入ってみるとテーブルの上には、普段は飲めないコーラやオレンジジュースが。皆嬉しそうに手に取り、そして渡邊代表理事の挨拶のあと、皆で乾杯！農場で頑張って田植えした分、すごくお腹が空いていたはずなのですが…。料理は予め予約してあったので、目の前に次々と出てくる料理を皆嬉しそうに口に運びます。普段は夢中にご飯を食べ、女の子でも男の子でも何度もお代わりしている子どもたち。しかし、プノンペンの綺麗なレストランでの豪華な食事という、普段では味わえない雰囲気緊張してしまったせいか、料理が出終わる前にお腹いっぱいになってしまい、残ってしまった料理はすべてお弁当にして園に持ち帰りました。

食事が終わった後も慣れない水洗トイレに四苦八苦して、なかなか全員揃わずご馳走様が出来なかったり、普段の生活では味わえない色々な経験をした子どもたち。本当に楽しい時間を過ごしました。ご馳走様の後は皆でバスに乗り、渡邊理事長に見送られながら、園に帰りました。

園で最初の高校生誕生！

10月1日、ついに園から初めての高校生が誕生します！園に来て2年余り、朝の4時から夜の9時まで、本当に良く勉強を頑張ってきました。朝は学校に行き、午後は塾。園に帰ってきては補習に自習。空いた時間があればお手伝いも率先してやり、農作業の時にはもくもくと作業をする、本当に皆の見本となる女の子です。田植えでは渡邊代表理事に皆の前で褒めていただき、これから必ず夢を叶えますと決意表明をしました。そして「自分と同じように、皆夢を叶えるために頑張してほしい」と73人の弟・妹たちに向かって話しました。「これから高校、大学で勉強し、日本へ留学した後、将来はSAJで働いて、自分と同じように貧しくて学校にも行けないような子どもたちを、一人でも多く応援していきたい」とのこと。目をキラキラさせながら夢を語るそんな彼女の将来がとても楽しみです。